

キャラクター名
ありす

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー ブラム=ストーカー		ワークス	レネガイドビーイングC	カヴァー	リフォロ家居候
	オプション		年齢	不詳	性別	不明(外見は♀)
覚醒	感染	衝動	妄想	初期侵食率	33	%
出自	使命	経験	親友	邂逅	忘却	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	37
肉体	3	0	0	2		5	行動値	11
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	11
精神	2	1	3	1		7	戦闘移動	16
社会	1	0	0			1	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃			RC	5		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
絶凍の氷弾	R C	10r+9	0	15		C値8、侵蝕+10。U59
獄氷の魔弾	R C	14r+11	0	18		C値7、侵蝕+10。O100
鮮血の網	R C	7r+9	0	0		侵蝕+4。U59
鮮血の網	R C	7r+11	0	0		侵蝕+4。O100

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
アナスタシア・シンドローム	P 友情	N 不安		
神官(ディエティ)	P	N		
宇賀恵令奈	P 憧憬	N 恥辱		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
CR:サラマンダー	2	2	シンドローム	-	-	-	-	
効果: C値-SL								
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果: 侵蝕基本地+5								
オリジン:レジェンド	2	2	マイナー	至近	自身	-	RB	
効果: 【精神】判定達成地+LV×2								
焦熱の弾丸	3	1	メジャー	視界	-	対決	-	
効果: A値LV+2の射撃攻撃								
氷の加護	5	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: A値+LV×2。適用サラマンダー								
鮮血の網	2	2	メジャー	視界	範囲(選択)	対決	-	
効果: 命中時硬直付与。1シーンLV回まで								
氷炎の剣	3	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 武器作成。A値SL+6、G値6、命中-2								
鮮血の一撃	4	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 白兵ダイス+[SL+1]。HP-2								
炎神の怒り	2	3	メジャー/リア	-	-	-	-	
効果: 判定ダイス+[SL+1]。HP-3、肉体限定								
炎の加護	3	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 判定ダイス+SL。								
ブラッドリーディング	★	-	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果: 血や体液から情報を読み取る								
不燃体	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 熱に強くなる								
効果:								

「フェアリー・テイルはおとぎ話。アナタとワタシの浪漫飛行。オマエとオレの物語。キミはボクで、アンタはジブン。ワタシとワタシの哀しい逢瀬。ワンダーランドは終わらない。ミラーワールドは開かない。子守唄は響き止まず、童歌は聞こえない。永遠に永久にいつまでも、語られ続けるワタシたち。永久に永遠に何度でも、目を背けられるワタシたち。どうかどうか、最期まで愛してください。さあ、貴女の愛しき望みを叶えましょう」

とある任務で、町外れの図書館を訪れた"吸血者"アナスタシア。ジャームの犯行により、その図書館は既に壊滅。ほとんどの本は、原型をとどめていないほどに焼け落ちていた。無事に犯人を吊し上げ、UGN処理班にその身柄を引渡したアナは、何気なく図書館を見回す。随分ひどい有様だ、と苦笑しながら眺めていると、ふと床に横たわる大きな本を発見する。見たところ、その本は古びているもののしっかりと形を残していた。不気味なほどに、しっかりと。

「本に呼ばれた。そんな気がしたアナは、一抹の不安を覚えながらも誘われるように本を手取る。自分の血が、べっとりとするその手で。その本の題名は、「…アリス・イン・ワンダーランド」瞬間、本が眩い光を放つ。あまりの眩さに目を閉じたアナは、手から何かを吸い取られるような感覚を覚えると共に、優しく響く声を聞いた。

(ありがとう、見つけてくれて。ごめんなさい、見つかって。いま、ワタシはアナタとともに。ワタシが綴る、アナタの物語。ご迷惑でなければ、どうか一緒に)

「おそろおそろ目を開くと、そこには少女が立っていた。銀に近い白髪に、桃色の大きな瞳。エブロンドレスを纏う浮世じみた美貌の美少女が、血まみれの顔でアナを見上げている。「…あの、どちらさま…?」